

蓬萊の玉の枝①

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。
野山にまじりて竹を取りつつ、
よろづのことに使ひけり。
名をば、さぬきのみやつことなむいひける。
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。
あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
それを見れば、三寸ばかりなる人、
いとづつくしうてあたり。

現代語訳

むかーしむかし竹取の翁と呼ばれる人がいた。
野山にはいつて竹をとって、いろんなことに
使っていた。その人の名前は さぬきのみやつこ
といった
ある日竹をとっているとその竹の中に、根元が光る竹があった。
不思議に思っ、寄って見てみると、筒の中が光っている。
それを見ると、9センチ位の人がとてもかわいらしく座っていた。

重要語句

よろづのこと↓いろいろなこと
あやしがりて↓不思議に思っ
いと↓とても
うつくし↓かわいい
あたり↓座っていた